

## 学校評価の考察

平成30年3月 桜山小

### 【児童のアンケートから】

数値が高かった項目としては、学校・家庭・地域の協働の重要性（3.7）、元気に登校、学校が楽しい、授業の工夫、相談、情報発信、花や緑のある学校の環境（3.5）、役に立ちたい、読書、人権教育（3.4）でした。

数値が低かった項目としては、公園の環境（2.5）、桜山の自慢（2.6）、授業での挙手、自分に良いところがある、失敗を恐れない挑戦心、メディア・コントロール、地域行事の参加（3.0）でした。

### 【保護者のアンケートから】

数値が高かった項目としては、元気の登校（3.6）、友達にやさしい（3.5）、相談、情報発信、花や緑のある学校環境（3.4）でした。

数値が低かった項目としては、メディア・コントロール、桜山の自慢（2.5）、難しい問題をあきらめない、授業での挙手、失敗を恐れない挑戦心（2.7）でした。

### 【職員のアンケートから】

数値が高かった項目としては、桜山の自慢（4.0）、学校・家庭・地域の協働の重要性（3.9）、家庭学習、相談、情報発信、花や緑のある学校環境（3.3）でした。

数値が低かった項目としては、メディア・コントロール（2.3）、自分には良いところがある（2.4）、難しい問題をあきらめない、公園の環境（2.5）でした。

### 【意識の差】

#### 【児童と保護者では】

- ・児童が高かった項目では、難しい問題をあきらめない、読書、メディア・コントロール（+0.5）、家庭学習、学校・家庭・地域の協働の重要性（+0.4）でした。
- ・保護者が高かった項目では、友達にやさしい、公園の環境（+0.3）でした。
- ・差が大きかった項目は、難しい問題をあきらめない、読書、メディア・コントロールでした。
- ・児童の数値が24項目中21項目が高くなりました。

#### 【児童と職員では】

- ・児童が高かった項目は、難しい問題をあきらめない、メディア・コントロール（+0.7）、自分に良いところがある、学校が楽しい（+0.6）でした。
- ・職員が高かった項目は、桜山の自慢（+1.4）、学校・家庭・地域の協働の重要性（+0.2）でした。
- ・差が大きかった項目では、桜山の自慢、難しい問題をあきらめない、メディア・コントロール、自分に良いところがある、学校が楽しいでした。
- ・児童の数値が、24項目中21項目が高くなりました。

## 【保護者と職員】

- ・保護者が高かった項目は、友達にやさしい、自分に良いところがある、元気に登校、学習やくらしのきまり (+0.4) でした。
- ・職員が高かった項目は、桜山の自慢 (+1.5)、学校・家庭・地域の協働の重要性 (+0.6) でした。
- ・差が大きかった項目では、桜山の自慢、学校・家庭・地域の協働の重要性でした。
- ・保護者の数値が 24 項目中 15 項目が高くなりました。

## 【今後に向けて】

児童の意識調査をみると、・・・

- ① 「授業中、進んで挙手をしている」が 3.0 であり、授業への参加意欲をさらに高める必要があります。学校では、「あらおベーシック」の授業展開（課題設定・提示→課題解決のための話し合い活動→まとめと振り返り）を取り入れ、ペア学習やグループ学習を活用した対話型学習を取り入れています。今後も、児童によるアウトプットのある主体的な活動の場を確保しながら、ICTを活用した教材提示の工夫、めあて～振り返りまで 45 分完結を意識した授業改善に取り組みます。
- ② 本校の課題である「自分には良いところがある（自尊感情）」を高めるために、全校によるお互いが気持ちの良くなるふわふわ言葉、朝のあいさつから始まる友達関係づくり、学年を超えた関わりや地位人材の方との関わりをさらに充実させていきます。同時に、地域活動、公園の環境など地域との関わりがある活動については、コミュニティ・スクールの取組を進め、児童による地域貢献活動へつなげ、自己有用感を高めます。
- ③ メディア・コントロールについては、児童の数値が高く大人が低くなっています。これは、児童の自覚が低いことが要因であると考えられます。毎月の「メディア・コントロールの日」を活用し、メディアの接触時間について、保護者の方の協力を得ながら、ゲームやSNSなどの接触時間の見直し、家庭でのルールの徹底を図ります。（メディア・コントロール）
- ④ コミュニティ・スクールの取組への意識度は、職員→児童→保護者となっております。まだ、保護者の方までその周知が十分でない事の表れであると考えます。学校・PTA・地域の代表で組織しているコミュニティ・スクール推進委員会でも同様の課題が出されています。次年度の取組の重点として対策を考えていきます。

本年度は、今後の学校が果たす役割を意識して、学校評価の項目を新しくしました。この学校評価項目を取組の指標として、意見交換（熟議）を行いながら、年間を通した取組を行い、意識の向上を図りたいと思います。